

掛川市危機管理監と協力し、小学生に男女が活躍する自衛隊を紹介



岩岡危機管理監



箕輪1曹

自衛隊静岡地方協力本部袋井地域事務所（所長・菊池雅也1等空尉）は7月17日（水）、掛川市立倉真小学校で行われたキャリア教育「未来への夢語り」に参加した。

4・5・6年生約40人を対象に、元航空自衛隊のパイロットである掛川市役所危機管理監の岩岡政治氏と、袋井所広報官の箕輪勝政1等空曹が職業講話を行った。

講話では、岩岡氏が航空自衛隊やパイロット、自衛隊の男女共同参画について説明するとともに、小さい頃に航空祭で飛行機を見たことが進路選択のきっかけになったこと、パイロットになるにはどうすれば良いのかなど、自らの経験を伝えた。また、市の危機管理監として、ハザードマップを使って地域の防災を紹介した。

箕輪1曹は、航空機整備員としての自らの経験や、自衛隊ではどの職種でも女性自衛官が活躍していること、自衛官としてのやりがいなどについて伝えた。

講話後には、児童から「将来、夢が叶えられるように、運動も勉強も頑張りたい」「災害に対しての心構えが分かりました」といった感想が寄せられた。

袋井所は、今後も自治体や学校等と積極的に交流し、自衛隊に対する認識と理解の向上に努め、若者が描く将来の夢や可能性の拡大結実に貢献していく。

退職予定の隊員が企業とマッチング 自衛隊合同企業説明会

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・田代裕久1等陸佐）は7月17日（水）、グランシップ（静岡市）で開催された静岡県自衛隊合同企業説明会に協力した。

これは一般社団法人自衛隊援護協会東京支部が主催したもので、任期満了後に静岡県内で再就職を希望する陸・海・空の隊員45人と、県内での雇用を考えている91の企業・機関が参加した。

今回の説明会は、初めて午前・午後で参加企業が入替わる二部制で行われ、隊員がそれぞれ興味のあるブースを訪れて25分間の面談を8回行った。

各企業はタペストリーやポスターなどを掲示したブースを設置し、訪れた隊員に仕事内容や実際に働いている社員の声などを伝えてアピールした。隊員からも「自衛隊での経験を生かせますか」「福利厚生について教えてください」といった質問があり、自らの将来を見据えて真剣に説明に聞き入っていた。

8社のブースに足を運んだ隊員は「営業職を希望しています。一度に多くの企業から話を聞き、社風や福利厚生など、それぞれの特色を比べて自分に合いそうな企業を見つけることができました」と話し、成果を感じていた。

静岡地本は、今後も企業マッチングや研修などを実施し、隊員一人一人に寄り添った支援を行っていく。

